

事 務 連 絡  
平成 29 年 12 月 22 日

関係団体の長 殿

栃木労働局労働基準部  
健康安全課長

変異原性が認められた化学物質に関する情報について

標記につきましては、平成 29 年 12 月 22 日付け栃労発基 1222 第 1 号の 2「変異原性が認められた化学物質の取扱いについて」により栃木労働局長から通知したところですが、当該化学物質に関する下記の資料を送付いたしますので、貴会傘下会員又は傘下事業場への周知の参考として御活用いただければ幸甚に存じます。

記

- 別紙 1 変異原性が認められた届出物質に関する情報一覧
- 別紙 2 変異原性が認められた既存化学物質に関する情報一覧

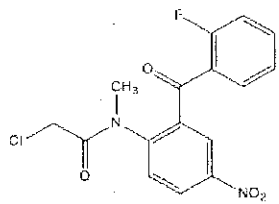
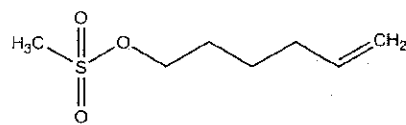
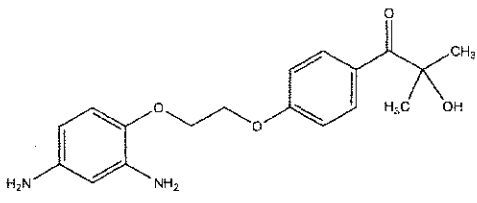
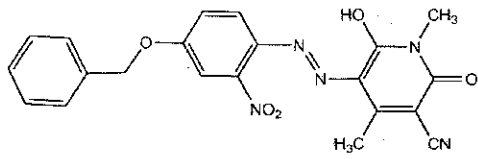
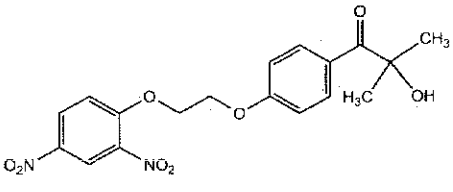
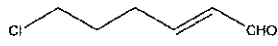
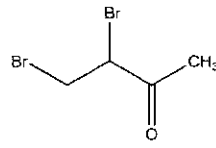
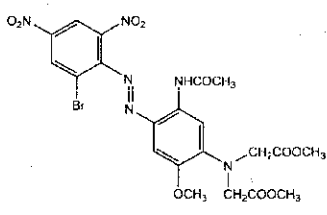
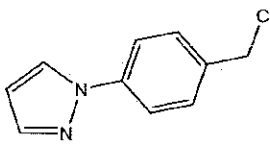
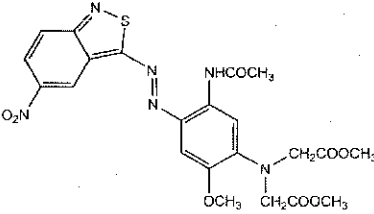
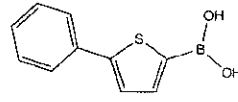
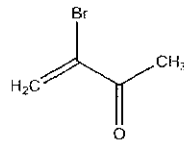
別紙1 変異原性が認められた届出物質に関する情報一覧

安衛法官報 通し番号	名称公表年月日 名称公表告示番号	名称	構造式	性状	用途の例
1	25490	平成28年12月27日 厚生労働省告示第 436号	エチルニグリオキシプラト重合物とトルエンの混合物	無色油状	医薬品中間体原料
2	25519		2-クロロ-2'-(2-フルオロペンゾイル)-N-メチル-4'-ニトロセトアミド	白色粉末	医薬品中間体
3	25524		1-[4-(2-メチルプロピル)エトキシ]フェニル]-2-ヒドロキシ-2-メチルプロピル-1-オン	淡褐色粉末	化学工業用原料
4	25542		1-[4-[2-(2,4-ジエトロフェキシ)エトキシ]フェニル]-2-ヒドロキシ-2-メチルプロピル-1-オン	淡黄色固体	中間物
5	25548		3,4-ジプロモエタノール-2-オン	透明液体	製造中間体
6	25550		ジメチル=2,2'-(5-アセトアミド-4-[(2-プロモ-4,6-ジエトロフェニル)ジフェニル]-2-メチルプロピル)ジフェタート	青色固体	分散染料
7	25551		ジメチル=2,2'-(5-アセトアミド-2-メチル-4-[(5-ニトロ-2,1-ベンゾチアゾール-3-イル)ジフェニル]フェニル)ジフェタート	緑色固体	分散染料
8	25616		3-プロモエタノール-2-オン	透明液体	製造中間体
9	25620		ヘキサ-5-エン-1-イルニクスルホナート	無色液体	香料の中間体
10	25622		5-[4-(ベンジルオキシ)-2-ニトロフェニル]ジフェニル]-6-ヒドロキシ-1,4-ジメチル-2-オキソ-1,2-ジヒドロピリジン-3-カルボニトリル	黄色固体	分散染料
11	25683	平成29年3月27日 厚生労働省告示第 85号	1,2-キシルンと1,3-キシルンと1,4-キシルンと1-プロモエタノール-2-エンの混合物	黄色液体	合成化学品原料
12	25708		(E)-6-クロロヘキサ-2-エナール	微黄色透明液体	合成化学品原料
13	25710		(E)-7-クロロヘプタ-2-エナール	淡黄色液体	合成化学品原料
14	25714		1-[4-(クロロメチル)フェニル]-1H-ピラゾール	淡黄色固体	試験研究
15	25736		ジヒドロキシ(5-フェニル-2-チエニル)ボラン	薄灰色結晶	電気・電子材料の中間体
16	25748		2,3-ジプロモエタノール	白色粉末	めっき原料
17	25754		2,4-ジメチル-5-(4-ニトロフェキシ)ピリミジン	微黄色粉末	医薬品の中間体
18	25782		ビス(4-ニトロフェニル)ニトリアミン	白色粉末	液晶配向膜用モノマーの原料
19	25818		2-プロモ-1-(オキサソ-4-イル)エタノール	淡褐色粉末	医薬品原料の中間体

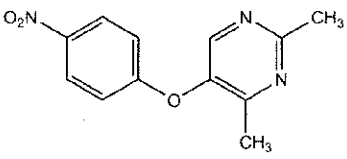
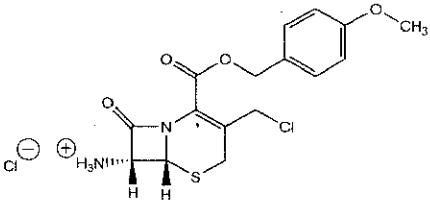
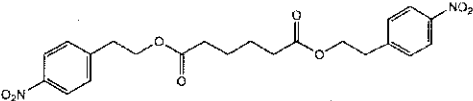
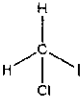
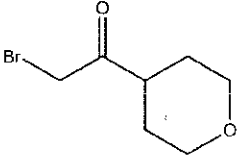
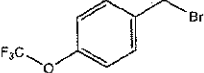
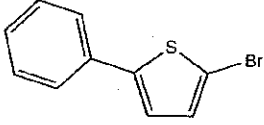
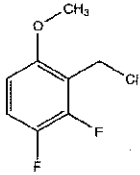
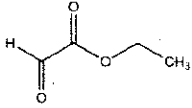
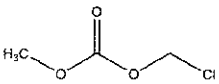
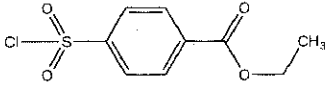
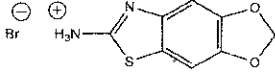
別紙 1 変異原性が認められた届出物質に関する情報一覧

安衛法官報 通し番号	名称公表年月日 名称公表告示番号	名称	構造式	性状	用途の例
20	25821		2-プロモ-5-フェニルチオフェン	薄橙色結晶	電気・電子材料の中間体
21	25889	平成29年6月27日 厚生労働省告示第 231号	エチルニグリオキシレート エチル=4-(クロロスルホニル)ベンゾレート	淡黄色液体	医薬品中間体
22	25890		((6 <i>R</i> , 7 <i>R</i> )-3-(クロロメチル)-2-[[4-外キシベンジル)オキシ]カルボニル]-8-オキソ-5-チア-1-チアピリジン[4, 2, 0]オクタ-2-エン-7-イル)アミノニウムクロリド クロロ(ヨート)メタン	淡黄色粉末	治療用原薬製造用原料
23	25939		1-(プロモメチル)-4-(トリフルオロメチル)ベンゼン	液体	合成用溶媒
24	25940		2-(クロロメチル)-3, 4-ジフルオロアニソール	無色液体	治療用原薬製造用原料
25	26049		クロロメチルニメチルニカルボナート	白色固体	医薬品中間体
26	26200	平成29年9月27日 厚生労働省告示第 309号	別添参照	無色透明液体	医薬品中間体
27	26201		別添参照	灰色～淡黄緑色粉末	中間体
28	26216		別添参照	淡黄色液体	合成化学品原料
29	26271		別添参照	黄白色結晶	電子材料
30	26299		別添参照	白色固体	フォトレジスト材料
31	26311		別添参照	黄色液体	治療用原薬製造用原料
32	26345		別添参照		

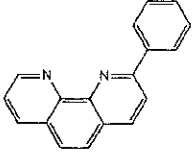
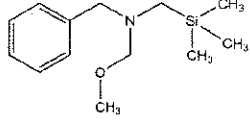
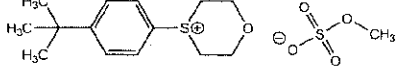
別添 変異原性が認められた届出物質の構造式

安衛法官報 通し番号	構造式	安衛法官報 通し番号	構造式
25519		25620	
25524		25622	
25542		25708	
25548		25710	
25550		25714	
25551		25736	
25616		25748	

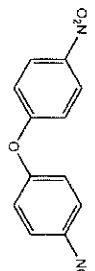
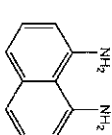
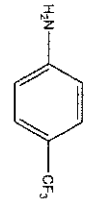
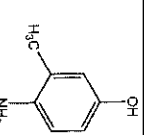
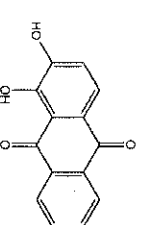
別添 変異原性が認められた届出物質の構造式

安衛法官報 通し番号	構造式	安衛法官報 通し番号	構造式
25754		25939	
25782		25940	
25818		26049	
25821		26200	
25889		26201	
25890		26216	

別添 変異原性が認められた届出物質の構造式

安衛法官報 通し番号	構造式	安衛法官報 通し番号	構造式
26299		26345	
26311			

別紙 2 変異原性が認められた既存化学物質に関する情報一覧

化学法・左側法 登録番号	CAS N O.	名 称	構造式等	常温の性状等(固体、液 体、気体)	用途	変異原性試験結果の概要 ※1	出典
1	3-883	101-63-3	4,4'-ジニトロジフェニルエーテル		固体 融点: 144℃ 沸点: - 蒸気圧: -	有機合成中間体 Ames試験最大比活性値: 1.5×10 <sup>3</sup> rev./mg	・化学工業日報社 ・厚生労働省
2	4-324	179-07-6	ナフタレン-1,8-ジイルジアミン		固体 融点: 64℃ 沸点: 205℃ 蒸気圧: -	染料中間体 Ames試験最大比活性値: 1.5×10 <sup>3</sup> rev./mg	・化学工業日報社 ・厚生労働省
3	1-516	7416-08-1	二酸化セレン(IV)	SeO <sub>2</sub>	酸化剤 触媒 原料, 合金表 面処理 固体 融点: 340℃ 沸点: - 蒸気圧: -	Ames試験最大比活性値: 2.7×10 <sup>3</sup> rev./mg	・化学工業日報社 ・厚生労働省
4	3-223	455-14-1	4-(4)フルオロフェニルアミン		液体 融点: 8℃ 沸点: 117℃/810Pa 蒸気圧: -	有機合成中間体 Ames試験最大比活性値: 9.3×10 <sup>3</sup> rev./mg	・化学工業日報社 ・厚生労働省
5	3-707	2835-99-6	4-アミノ-3-メチルフェニール		固体 融点: 177-179℃ 沸点: - 蒸気圧: -	有機合成中間体 Ames試験最大比活性値: 2.4×10 <sup>3</sup> rev./mg	・化学工業日報社 ・厚生労働省
6	4-704	72-48-0	1,2-ジヒドロキノン-9,10-ジニトロキノン		固体 融点: 290℃ 沸点: 430℃ 蒸気圧: -	染料染料 Ames試験最大比活性値: 4.3×10 <sup>3</sup> rev./mg	・化学大辞典 ・厚生労働省

※1 各変異原性試験の判断基準

- 微生物を用いる変異原性試験 (Ames試験) において強い変異原性が認められるとする比活性値は、概ね1,000 (revertants/mg) 以上
- 哺乳類培養細胞を用いる染色体異常試験において強い染色体異常誘発性を示すと評価する濃度は、D<sub>50</sub>値が概ね0.01 (mg/ml) 以下
- *in vitro* 小核試験で陽性が出た場合には、強い陽性と判断